

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和6年度第2回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和6年8月22日（木） 14：00～15：30

開催場所 本庁5階 プレゼンルーム

令和6年度第2回北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和6年度第2回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時

開催日時 令和6年8月22日(木) 14:00～15:30

開催場所 本庁5階 プレゼンルーム

3 出席委員(五十音順)

城戸 将江、古林 節子、中里 彰宏、樋上 弥寿子、森江 由美子

4 議事

(1) 令和6年度第1四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 令和6年度第1四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和6年度第1四半期に契約をした工事の中から、古林委員が10件(契約課契約分8件、東部整備事務所分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 総合評価、一般競争入札による土木工事で、技術点が1位で、落札金額が4位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 北九州モノレールの鉄筋コンクリートでできた支柱部分を補修補強する工事である。

北九州モノレールは、昭和60年の開業から長く利用されており、支柱自体が古くなっていることや開業当時とは耐震基準も変わっていることから、順次補強工事を行っている。交通量が非常に多い322号線と並行しており、作業ができる箇所は中央分離帯部分のみであることや列車の運行が終わった後の夜間工事対応となるなど工事施工上の配慮が求められるため、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。

参加申請は10者で、5者が辞退したため、5者による競争入札となった。落札業者の入札金額は4位であったが、価格以外の評価点が最も高く、これらを総合した評価値で1位となったため落札した。

(問) 総合評価、一般競争入札による建築工事で、技術点が4位で、落札金額が4位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 小学校の大規模な改修を行う工事である。

教室の内装工事は夏休み期間中に実施する必要があることや、外壁工事についても授業に支障がないように実施する必要があるなど施工上の特別な対応が求められるため、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。参加申請は14者で、5者が辞退や取消のため、9者による競争入札となった。落札業者の入札金額は5位、価格以外の評価点は8位であったが、これらを総合した評価値で1位となったため落札した。

(問) 一般競争入札による建築工事で、参加業者数が少ないため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 施設の屋根や外壁等を改修する工事で、市内の建築Aランク業者を対象とした。昨今、施設の老朽化に伴い、公共工事だけでなく民間工事も含めて、外壁工事は非常に多く施工されていることや海に近い施設のため外壁の痛みも激しいといった工事内容から敬遠されたのか、参加申込業者が4者と少なかった。この4者による競争入札が行われ、落札業者を決定した。

(問) 一般競争入札による電気工事で、参加業者数が多く、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 体育館アリーナ照明設備のLED化を行う電気工事で、市内の電気Aランクの業者を対象とした。施設を休館して行う工事で比較的施工しやすいことから、参加申請は27者と多かったが、9者が辞退や取消のため、18者による競争入札が行われた。入札の結果、9者が最低制限価格を下回ったため失格となり、10番目に低い金額で入札した業者が落札業者となった。算出している最低制限価格からみても、落札率は特別に高い案件ではない。

(問) 指名競争入札による土木工事で、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 北九州モノレールのレール部分を補修する工事である。

プレストレストコンクリート（PC）という特殊なコンクリートを扱うため、高度な技術が求められるとともに、列車の運行が終わった後の夜間工事対応となるなど難易度の高い工事内容である。そのため、本件のような工事については、金額が高くても一般競争入札ではなく指名競争入札を採用している。

土木Aランクの業者25者を指名したところ、21者が辞退、2者は不参加となり、2者による競争入札となった。

本件工事は、令和5年度に入札を実施したものの落札者を決定できなかった案件であるが、施工難易度が高いため多くの業者から敬遠されたのではないかと考えている。

(問) 指名競争入札によるとび・土工・コンクリート工事で、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 宅地整備に伴い法面の補強を行う工事である。

法面の補強が施工可能なとび・土工・コンクリート業者のうち、手持工事等がある業者を除く8者を指名したところ、1者が辞退、7者による競争入札が行われた。

入札の結果、1者が最低制限価格を下回ったため失格となり、2番目に低い金額で入札した業者が落札業者となった。大規模な法面補強であり、工事内容の難易度から価格は下がりにくいものだったと思われる。

(問) 特命随意契約による土木工事で、1者の特命随意契約となった詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 橋の架替え工事に伴い設置した仮橋を継続使用するための維持管理工事である。仮橋を設置した業者が、設置期間中の保守点検や賃料の契約を行っており、他業者と契約した場合には、施工責任が不明確となることから、当該業者に特命で発注したものである。特命とすることで施工期間の短縮、経費の節減に加え、安全・円滑な施工が可能となる。

(問) 特命随意契約による機械器具設置工事で、1者の特命随意契約となった詳しい状況について知りたく抽出した。

(答) 複数のJR駅周辺における既設昇降機の部品交換等を行う工事である。

製造メーカー以外の部品で交換等を行った場合、部品の規格等が異なり施工が極めて困難となることやシステム全体の責任区分が不明確となり、故障等が発生した場合の原因究明や故障修理等の対応が困難となることから、製造メーカーに特命で発注したものである。

(問) 指名競争入札による港湾工事で、落札率が100%であるため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 老朽化した車止めなどの岸壁付属施設を改修する工事である。

本件工事は、令和6年度の門司東部地区における港湾の緊急工事の指定業者を決定するための工事である。緊急工事指定業者については、市からの緊急指示に迅速に対応できるように人員や機材を常時確保するとともに、連絡や出勤体制を確保しておくことが求められる。

港湾Bランクの東部地区の業者に対し、緊急工事への対応が可能かヒアリングを行い、対応可能と回答があった6者を指名したところ、技術者が不足しているなどの理由で3者が辞退したため、3者による競争入札となった。入札の結果、2者が最低制限価格を下回り失格となり、唯一、最低制限価格を上回る価格で入札した業者が落札したが、事前公表している予定価格と同額での入札であったため、落札率が100%となったもの。

(問) 指名競争入札による塗装工事で、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 塗装部分の劣化等により早期の措置を要すると判定されたJR跨線橋の健全性回復を目的とした工事である。

東部地区の塗装業者のうち、指名実績のある20者を指名したところ、現場代理人や技術者が配置できないとの理由で5者が辞退し、2者が不参加であったため、13者による競争入札となった。

入札の結果、1者が最低制限価格を下回り失格となり、2番目に低い金額で入札した業者が落札業者となった。

施工難易度が高い工事ではなく、手持工事の少ない年度当初の発注であったことから、業者の落札意欲が高くなり、最低制限価格に近い応札が多く、落札率が低くなったものと考えられる。